

題目

「親の養育態度が社会的情報処理と自己制御に及ぼす影響—内的機制としての自我状態による媒介モデルの検討—」

著者

吉澤寛之 岐阜聖徳学園大学

分類

調査研究

掲載誌

2009年 日本教育心理学会第51回総会発表論文集 p. 42.

問題および目的

親の養育としつけによる社会化が、社会的情報処理や自己制御の適応性に及ぼす影響を検討する。親の社会化がこれらの社会性の指標に及ぼす影響は直接的ではないと考えられるため、社会化の効果が子どもに特定の自我状態として内在化された結果、社会性に影響する媒介モデルを検証する。

方法

調査対象者：岐阜県内の大学生 297名（男性 151名、女性 144名、不明 2名；平均年齢 19.69歳）

調査内容：親の養育態度認知尺度、親のしつけ認知尺度、自我状態 IU エゴグラム、ルール適用数・適切性、認知的歪曲尺度、規範的攻撃信念尺度、社会的自己制御

結果および考察

媒介モデルを検討するため、まず養育態度としつけから IUE 下位概念への影響を検討する重回帰分析を実施した。さらに第 1 ステップで養育態度としつけ、第 2 ステップで IUE 下位概念を投入し、社会性指標への影響を検討する階層的重回帰分析を実施した。養育態度やしつけは IUE に対して有意な説明力を有するものの、社会性指標に対する直接的な説明力は微弱であった。一方 IUE 下位概念は、社会性指標に対して養育態度やしつけを超える有意な説明力を有した。

親の養育態度やしつけは、それらが自我状態として子どもに内在化されることで、間接的に子どもの社会性に影響することが明らかとなり、媒介モデルを支持する結果が得られた。しかし、測定した親の養育態度やしつけは、子どもからの回顧法による情報であるため、今後は親からの養育やしつけに関する情報を加えて検討する必要がある。

（要約者：吉澤寛之）